

輸出事業計画

※申請者名：アグベル株式会社、品目：ぶどう、もも

1. 輸出における現状と課題

現状

- 山梨県は果樹栽培に適した気候・風土で質の高い農産物を生産しており、ぶどうの生産量は日本一。
- 2023年は、ぶどう生産量41,700t、栽培面積3,790ha、ももは生産量32,200t、栽培面積3,040haと減少傾向
- 2022年度の実績：自社選果場でのQCチームによる品質管理体制確立、山梨県・茨城県での輸出体制構築

課題

- 産地の高齢化に伴う労働力不足、耕作放棄地の増加
- 台湾向け防除体系に対応した圃場整備・農薬管理の必要性
- 選別作業の属人化と作業効率化の必要性
- 輸血量増加に対応する物流体制の整備
- 新規市場（カナダ）、新規チャネル（タイ）での販路開拓

2. 輸出事業計画の取組内容

【生産】

- 自社農場の拡大（8ha→10ha）、契約農家の拡大（50名→100名）
- 茨城県での台湾向け防除体系対応圃場の整備
- 山梨大学と連携したAI選別システムの導入
- 輸出産地協議会による産地間連携
- 根域制限栽培の導入

【流通】

- 新規選果場・保冷施設の設置
- フィルムバッカー・梱包機導入による効率化
- 成田空港・羽田空港からの直接輸出体制構築
- 鮮度保持資材の活用による輸送時の品質向上・資材の共同開発

【販売】

- 香港・シンガポール・ドバイ・台湾：高級スーパー、デパートでの販路拡大
- マレーシア：現地系スーパー等での販路開拓
- タイ：直接輸出体制の構築をし、現地系小売スーパーに展開

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制

アグベル社を中心として、協議会を組織し（中核機関：アグベル株式会社）、物流業者や現地販売先と連携しながら、輸送フィードバックや販売状況を速やかに連携することで、改善を踏まえた最適な輸送ルート・品質・コストで出荷翌日には現地に流通させることが可能となっている。その他、金融機関や行政機関等とも連携しながら、輸出に関する情報を有益に活用しながら輸出を実行。



輸出事業計画

※申請者名：アグベル株式会社、品目：ぶどう、もも

4. 輸出目標額

ぶどう	現状（2021年度）	目標（2028年度）
輸出額	78,000千円	200,000千円
輸出量	48t	200t
輸出先国	香港、シンガポール、 タイ、台湾	香港、シンガポール、タイ、 カナダ、台湾、マレーシア、ドバイ

もも	現状（2024年度）	目標（2028年度）
輸出額	15,000千円	31,000千円
輸出量	27t	42t
輸出先国	香港、シンガポール、タイ	香港、シンガポール、タイ、台湾、 ドバイ、マレーシア